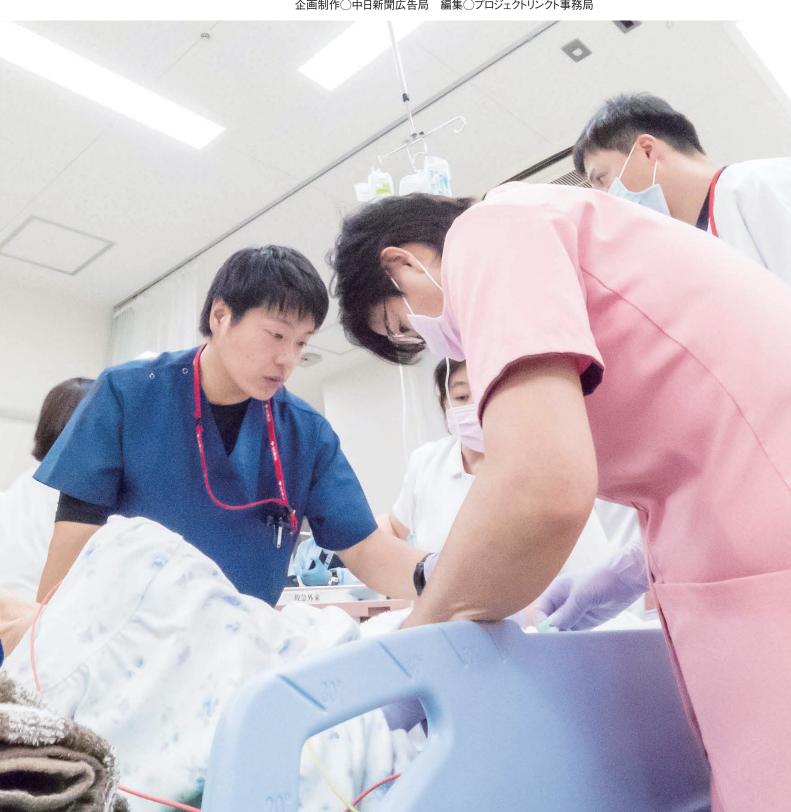


救急看護に見る 公益性の追求。

救急医療特集

西尾市民病院

企画制作〇中日新聞広告局 編集〇プロジェクトリンクト事務局



位心を亡

そのマンパワー不足を補い、市民病院の公益性(多くの人々の利益の増進に寄与すること)を いかに担保するか。同院の懸命な取り組みを、救急医療の現場で取材した。 全国平均の半数以下に留まり、地域の中核を担う西尾市民病院においても、深刻な医師不足が続いている。 愛知県西尾市は、医療資源が極めて少ない地域である。人口当たりの病床(入院ベッド)数、医師数ともに、

CHAPTER 救急外来を、円滑に 救急外来を、円滑に

365日、休むことのない救急外来をのぼる(平成28年度実績)。 24時間のぼる(平成28年度実績)。 24時間のぼる(平成28年度実績)。 24時間のぼる(平成28年度に対している。

入る外来看護師たちだ。 さ3名の専従看護師と、当番で応援に 護認定看護師の相沢 努をリーダーとす 医師とともに支えているのは、救急看

に必ず問診をして、緊急性を事前に判を堅持。救急搬送以外の受診患者に対を堅持。救急搬送以外の受診患者に対護師1名と応援看護師2名という体制

様子やメモ内容から緊急性が高いと判 た的に対応してもらうよう医師に依頼 する。同時に、救急搬送の連絡が入れ する。同時に、救急搬送の連絡が入れ で認。検査が必要と想定される場合に はCT室などに事前連絡を入れ、検査 はCT室などに事前連絡を入れ、検査 はでの動線確保に先手を打つ。通話の までの動線確保に先手を打つ。通話の までの動線確保に先手を打つ。通話の

頭を働かせています」(相沢)。断し、医師の電話対応が終わる前に受けてくださっています。私たち看護師とは、少ない人数で月に何度も救急修医は、少ない人数で月に何度も救急をに先手を打つこと。当院の医師や研速に先手を打つこと。当院の医師や研速に先手を打つこと。当院の医師や研速に先手を打つこと。当院の医師や研すでもでくださっています。私たち看護師では、医師が診療行為に集中できるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいかに先回りした準備ができるか、常にいる。

しい』ことには気づけるようになってき せん。救急の看護師たちは『何かおか がる徴候をキャッチできなければいけま ている。 ことは容易ではない。そのため相沢ら す。 当院には、2年前から大学病院で を根拠に基づいて把握することが重要で には、何故そういう症状が起きるのか ました。しかし、確実性を高めるため るためには、私たちが確実に重症に繋 減らしながら、救急患者を受け続ける 支えようと奮闘する医師たちの負担を い日も多い。そのなかで、救急医療を 加傾向にあり、夜間も患者が途切れな ここ数年、同院の救急搬送件数は増 救急看護の質的向上を意識し続け 「医師が安心して診療に集中す



向上をめざしています」(相沢)。

根拠を学ぶことで、看護力のさらなる度な救急現場の手法や考え方、科学的てくださっています。今は、先生から高救命医として活躍する医師が週1回来



西尾市消防隊による救急搬送の

6割以上を受けている。

救命救急センターだけでは

対応しきれません。

機能しなくなったら、市内の

私たちが頑張ってくださる医師を

●特定の看護分野において熟達した看護 ●特定の看護分野において熟達した看護 をめざし、人材育成を進めていく構想で をめざし、人材育成を進めていく構想で ある。

●「当院に必要な看護分野で資格を取りたい人がいれば、全面的にバックアップしています。但し、認定看護師は組織横断的に活動するので、医師をはじめ、他職種から信動するので、医師をはじめ、他職種から信動される人でなければ務まりません。そうりた人間力も磨いてほしいと思います」とした人間力も磨いてほしいと思います」とした人間力も磨いてほしいと思います」とした人間力も磨いてはしいと思います。 「当院に必要な看護分野で資格を取りたの両面において効果を上げている。



ウラを 中日新聞 「リンクト」 **LINK ED** Plus +



CHAPTER 地域医療を守る。 院内および地域

れば、 の命を救うことができます」 びで身につけるもの。院内の看護師全 シンプトム)があります。 8時間前に必ず危険な徴候(キラー・ こるように見えますが、実はその6~ スからスタートさせた。「急変は突然起 員を対象にしており、まずは師長クラ その一つだ。これは患者の急変にいち早 とえば、 頑張りは、さらに広がりを見せる。 を守っている同院。こうした看護師の 護部の鈴木育子部長は語る。 師がそれを見逃さず、 く気づくための実践力を、 護部で新たに始まった〈気づき研修〉も 資源のなかで、 看護師が中心となり、 救命処置に至る前に、 相沢の発案をきっかけに、 必死に地域の救急医療 適切に対処でき 限られた医療 少人数の学 病棟の看護 と同院看 患者さん 看 た

西尾市民病院では〈気づき研修〉を

継続発展させていく計画である。

全員が、患者の危険な徴候に

て、即座に行動できる力を

重要である。院内の看護師

フィジカルアセスメント(問診・打診 の看護師が対象だが、同院では今年(平 に学び、エビデンス(科学的根拠) 握・分析すること)の手法などを一緒 視診・触診などを通して、 を地域に開放。地域の看護職を招いて 成29年)から、 した合同研修の狙いはどこにあるのか。 基づく看護の実践に繋げている。こう この気づき研修は今のところ、 認定看護師による研修 症状を把 院内

> 域で、 います。 ち看護師の能力を高め、 す」と、鈴木は話す。 それを地域へと広げていくのが目標で 推進していかなくてはならないと考えて 後も地域医療を守っていくため、 が、 一西尾市は医療資源が極めて少ない地 看護師はある程度数がいます。 医師も病床数も不足しています まずは院内の看護力を高め、 チーム医療を 私た 今

患者を預かる急性期病院では

(救急への対応力)と同時に 〈急変への対応力〉が非常に

もしも西尾市民病院が医師不足を理

が、 支障をきたす。 たら、 院の公益性を堅持していく構えだ。 市民生活の安心を守っていこうとするの 看護師の力をフルに発揮することで 同院の戦略である。 救急医療も含めて診療停止に陥っ 看護力を高め、 たちどころに西尾市民の生活に そうならないように、 活かし、 同院はこれか 市民病

BACK STAGE

病院の機能向上に繋がる。看護師の主体的な活躍が

把握する看護師は、患者と各職種を繋ぎ の身近にいて、患者の状態や希望をよく 西尾市民病院のように医師不足の現場で チーム全体を繋ぐ要の役割を担う。特に 療にあたるチーム医療が進んでいる。 患者 職がそれぞれの専門性を活かして患者の治 医療の高度化にともない、 看護師は 医師の指示を受けて動く ム医療を推進 多様な医療

を施行。たとえば脱水時の点滴など、 役割拡大に向けての取り組みも始まった。 病院の機能も高まっていくのではないだろ 師の活躍領域が広がることで、今後さらに の育成が始まっている。このように、看護 定の医療行為が行える看護師(特定看護 国は〈特定行為に係る看護師の研修制度〉 しする気運が全国的に高まり、 ●こうした看護師の主体的な活躍を後押 するエンジンとなることが期待される。 診療看護師と呼ばれることもある

企画制作

編集協力

中日新聞広告局

西尾市民病院 ∓445-8510

TEL 052-221-0694 FAX 052-212-0434

中日新聞広告局広告開発部

http://nishio-shimin-byouin.jp/

愛知県西尾市熊味町上泡原6 TEL 0563-56-3171(代表) FAX 0563-56-8966

プロジェクトリンクト事務局

TEL 052-884-7831

FAX 052-884-7833 http://www.project-linked.jp/

プロジェクトリンクト



LINKED VOL.26 タイアップ

